

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院藏)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187

恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788

本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823

吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789

定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490

明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069

圓乗院 TEL 086-942-2356

ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

お彼岸法要の申込は三月十日(火)までに各院または納経所へお願いいたします。

春の餘慶寺お彼岸法要

お彼岸のくどくや

ふしぎ花りようらん

浮き世のわがみ

いづくにかある

世の花々はつぼみふくらんで、日ざしもあたたかくなり、大自然の恵みを肌で感じられる時節を迎えます。これら五感を揺すぶるダイナミックな春の移ろいは、人智をはるかに超えた不可思議境といえましょう。そのまっただ中において、我が身への立場は見失われがちになります。

神仏への感謝、天地への感謝、ご先祖様への感謝、両親への感謝、家族、先生、友人、ペット、…すべての生きとし生けるものへの感謝。いかされる有り難さ、感謝の気持ちで自分を取り戻す妙薬であります。

報恩謝徳(恩に報い

徳に感謝する)の春の

お彼岸法要が餘慶寺本

堂において行われます。

お誘い合わせの上お詣りください。



餘慶寺 春の行事

涅槃会(本堂)

三月十五日(日) 十六時

お釈迦様のご命日は二月十五日ですが、餘慶寺では月遅れでお勤めします。本堂に涅槃図を掛けて法要をします。

彼岸会(本堂)

三月二十一日(土・祝) 十時

檀家各位並びに餘慶寺縁者各位のご尊霊様のご供養をいたします。法要のお申し込みは、各院または納経所でうかがいます。

降誕会(本堂)

四月八日(水) 八時

お釈迦様の誕生日で、「花祭り」「灌仏会」ともいいます。本堂の正面に用意された花御堂にお釈迦様の生まれたときのお姿である誕生仏を祀り、甘茶をかけてお祝いします。*十時から十六時まで甘茶の無料接待があります。

さくら祭り(本堂・薬師堂)

四月一日(水)～八日(水)

本堂 灌仏甘茶のお供え
薬師堂 護摩供

一日～七日 午前十一時
八日のみ 午前十時

護摩供が終わる次第、薬師如来様も特別拝観できますので、ぜひお詣りください。(午後二時まで。八日のみ午後三時まで)
添え護摩木と祈禱のお申し込みは、納経所または薬師堂でうかがいます。

期間中、「さくらカフェ」も会館前で開店します。お詣りの後は、一息入れながらお花見にご活用ください。*桜の開花状況によっては三月最終土・日曜日も開店予定です。

各院からのお知らせ

恵亮院より

毘沙門天王縁日護摩祈禱
(於 恵亮院毘沙門堂)
毎月三日 午前十時

本乗院より

写経会(於 本乗院客殿)
毎月第三日曜日
十一月～三月 午前七時
四月～十月 午前六時

定光院より

大聖歡喜天縁日(於 定光院)
毎月十五日 早朝より
*病氣平癒等のご祈禱は随時受付しています。

餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)

毎月八日 午前十時

(八月はありません。)

護摩供養をしています。

ご祈禱のお申し込みは納経所へお願いします。

観音縁日(於 本堂)

毎月十八日 午前八時

みんなで観音経をあげます。

お経本は本堂にありますので、お気軽にお詣りください。

さくら祭り

四月八日はお釈迦さまのお誕生日です。餘慶寺では毎年、この日に降誕会こうたんえの法要をし、花御堂はなみどうで釈迦誕生仏に甘茶あまぢやをそそぎかんぶつえ（灌仏会ともいいます）、あまぢやの無料接待をしております。

また境内けいだいは満開のさくらで彩られ、多くの参拝者でにぎわいます。

また四月一日から八日まで「さくら祭り」として、秘仏薬師如来やくしにょらい（重要文化財）の特別公開や特別薬師護摩祈禱ごまきとう、寺庭婦人による「さくらカフェ」（各四百円）などを開催いたします。是非とも春の上寺山へお詣りください。

厳粛の中執り行われる
降誕会法要



花御堂にお詣りする
参拝者の方々



大勢の方々に賑わう
甘茶接待



お詣りの後は
さくらカフェへ

上寺の鐘（運び出し）報告

一月二十六日（月）の十時から午後にかけて上寺の鐘（梵鐘ぼんしやう、県指定重要文化財）の運び出しが行われました。当日は、あいにくの雨模様となりましたが、三十名以上の壇信徒の方々が一目見ようと見学に訪れており、関心の高さがうかがえました。

運び出しは、まず、鐘楼しやうろうの天井板を外して鐘の留め具を外し、鐘をはしごがかかっている部分までずらししました。そして、そこからゆつくりと下へ移動しました。（写真①）

次に、長年溜まっていたほこりを丁寧ていねいに落とし、鐘が痛まないようにしっかりと養生ようじやうをしました。

そして、養生をした鐘の外側を木枠きわくで囲み鐘楼から運び出されました。（写真②）

このように、運び出しは終始万全に行われ、専門職の方々の手際の良さに感心させられるばかりでした。

今後、九州国立博物館での展示（四月二十一日～五月三十一日）だけでなく、成分分析等も行われます。新たな発見がありましたら随時報告をさせていただきますので、お楽しみにお待ちください。



① 取り外された梵鐘



② 運び出される梵鐘

ひとくち法話

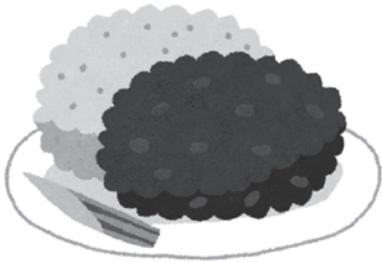
「お彼岸」

もうすぐお彼岸です。お墓を掃除して、おはぎや供物を供えてご先祖様のご供養をされることと思います。

この彼岸の慣習は、仏教発祥のインドや中国にはありません。日本独特の仏教行事です。

鎌倉、室町時代の庶民の暮らしは貧困でした。来世（彼岸）こそは極楽浄土に転生できる事を願い今（此岸）を精一杯努力し積善功徳を実践しました。現在では、お彼岸団子を供えることは簡単なことです。しかし昔の庶民は、白米を「銀しゃり」と呼び米飯を食べることすら出来ませんでした。ほとんどが雑穀米でした。そんな中で、日々の食事を少しずつ節約し砂糖や小豆を手に入れお彼岸団子を供えていました。お彼岸団子は日々の精進の結晶でした。

今の私たちのお彼岸は、ご先祖様の苦勞と精進に感謝し冥福を祈るとともに、今出来る精一杯の功徳を積むことではないでしょうか。お彼岸の前半は今日までの反省をし、中日にご先祖を供養し、後半は今後の目標を立てる期間だとも言われています。千年続くお彼岸の意味を熟慮して、有意義な人生を送る機会にはいかがでしょうか。



団参旅行へのご参加のすすめ

今年、餘慶寺では3つの団体参拝を企画しております。皆様との親睦しんぼくを深め、ご縁のある寺社をめぐる旅をご提案いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

①九州参拝（4月23日（木）～24日（金））

上寺の梵鐘ぼんしょうが九州国立博物館へ展示されるのをきっかけとして、百八観音霊場の九州寺院3ヶ寺や太宰府天満宮たざいふてんまんぐうなどを参詣いたします。

②美作大聖寺参拝（6月27日（土））

山陽花の寺霊場開創5周年記念法要が、第十三番札所大聖寺（美作市）において行われます。あじさいが見頃の時季であります。その後、第十一番札所玉泉寺（真庭市）を巡拝します。

③中国普陀山参拝（9月7日（月）～12日（土））

中国観音霊場会では、中国普陀山との交流のため毎年渡航とこうしておりますが、今年岡山県札所寺院が担当県となって参拝をいたします。期間中には香港マカオも訪れます。

※参加ご希望の方は、いずれも別途、詳細が記載された申込用紙があります。参加費を添えてお申込みください。

毎月十八日は観音縁日。午前八時より観音経を誦読します。

毎月第二日曜日 午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

十三仏について〜勢至菩薩〜

勢至菩薩（一周忌）

一周忌の仏さまは勢至菩薩さまです。阿弥陀如来さまを中心に観音菩薩さまとともに並ぶ三尊の形式で祀られることが多く、単独で祀られることは少ない仏さまです。

そのお姿は法事やお葬式の時にかけるお軸で良く見かけますが、阿弥陀如来さまに向かって右側の観音菩薩さまが蓮華の台を持つのに対し、勢至菩薩さまは合掌した姿で表されることが多く、今まことに往生しようとする人々を極楽浄土に迎えてくれます。

冠には水瓶をいただき、化仏をいただいた観音菩薩さまと見分けることが出来ます。水瓶には本尊を供養するための水が入っているとも、甘露の宝水を貯えているとも言われています。

文殊菩薩さまに並ぶ智慧の仏さまで、観音菩薩さまが慈悲をもって救うのに対し、勢至菩薩さまは智慧をもって救います。

勢至とは、「大いなる知恵の勢いで、人々の仏智仏性を聞き、悟りに至らしめる」という意味です。



よけいじ寺子屋（予定）

会場 餘慶寺会館（十四時〜）

寺子屋写真館



今後の予定

☆『餘慶寺古文書読解（仮）』 二月二十一日（土）

講師 瀬戸内市教育委員会 社会教育課 村上岳先生

☆『分かりやすい仏教講座』その2』 三月八日（日）

講師 定光院・円乗院住職 西野祐誠師

☆『落語講演（仮）』 三月二十二日（日）

講師 岡山大学落語研究会 会員様

☆『無常のこと』 四月十八日（土）

講師 吉祥院住職 大石恵海師

☆『極楽の話』 五月二十三日（土）

講師 吉祥院住職 大石恵海師

※聴講無料です。お誘い合わせうえ、ご参加下さい。

編集後記

上寺の梵鐘が九州へ旅立ち、一ヶ月が過ぎました。夕刻を知らせる鐘の音が聞こえない日々になりに少し寂しいものですが、やはり寂しいものです。四月二十一日（火）〜五月三十一日（日）の期間、九州国立博物館にて拝観することができます。餘慶寺では、団参旅行を計画しておりますので、是非ご利用ください。